

## プロシーディング

平成16年度明倫短期大学 第2回公開講座

### 公開シンポジウム 「患者さんが満足する入れ歯づくり」

Symposium : Denture Fabrication for the Patient's Satisfaction

コーディネータ, 座長

明倫短期大学歯科技工士学科教授

附属歯科診療所 野村 章子

#### 主旨

総入れ歯の治療がご縁で10年ほどお付き合いのある89歳の患者さんがいらっしゃいます。新潟大学歯学部附属病院入れ歯診療室で初めてお会いした当時は、入れ歯が合わなくて食事が思うようにいかず、たいへん落胆された様子でした。歯科技工士、研修歯科医師とともに、いつもの治療手順に従って、使用義歯の調整を最初に手掛け、その結果を新義歯の設計に反映させて、通法どおり確実な治療手順と正確な歯科技工操作に努めました。入れ歯を完成した後もていねいな調整を繰り返したところ、患者さんからは、以前のように食事ができるようになって、趣味のジョギングも再び楽しめるほど元気になったとお褒めの言葉をいただきました。それ以来、今日まで毎年行われる新潟マラソン10kmレースに参加されていますし、私の転任とともに、引き続き本学の附属歯科診療所にも定期診査で来院されています。この患者さんから「今年もマラソンに参加できましたよ」とお聞きすることが、この方の入れ歯満足度を評価する指標の一つです。

さて、本学は歯科技工士、歯科衛生士、さらに言語聴覚士を養成する医療系短期大学です。また、臨床教育の場として併設されている附属歯科診療所は一般診療、訪問歯科診療に加えて、歯科補綴学、歯科保存学、口腔外科学、歯科矯正学、審美歯科などの専門分野も設置されています。最近では、入れ歯治療において歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士によるチーム歯科診療に、栄養士も参画する新しい体制を導入しています。この体制は、入れ歯を製作するために行う診療や技工操作に加えて、入れ歯が完成した後も患者さんが毎日の生活の中で直面する口腔ケアや食事管理を総合的に支援するものです。

今回のシンポジウムでは、県民とりわけ近隣住民や診療所の患者さんを対象にわかりやすく興味深いことをモットーに、次のような内容で企画しました。

- ・入れ歯の役割と種類
- ・診療室での治療の流れ
- ・歯科技工室での工程
- ・入れ歯の完成までに必要な診療室と歯科技工室の連携
- ・患者さんから聞く入れ歯の満足度
- ・入れ歯と仲良くおつきあいの秘けつ
- ・入れ歯をお使いの方に適した献立と米菓の試食
- ・入れ歯に対する質問と回答

シンポジストには、本学の歯科技工士教員と附属歯科診療所の歯科衛生士、さらに学生食堂に勤務する栄養士にもお願いしました。共同研究者の株式会社亀田製菓とレシピ企画からは、試食用食材の提供がありました。また、患者さんにもシンポジストとして入れ歯の経験談をお話ししていただきましたが、その内容は本稿では割愛させていただきます。

- |                                |        |              |
|--------------------------------|--------|--------------|
| 講演1. 歯科技工士が担当する入れ歯づくり          | 佐々木 聡  | 歯科技工士学科 助手   |
| 講演2. 入れ歯でハッピーライフ               | 伊藤 圭一  | 歯科技工士学科 助手   |
| 講演3. 入れ歯との長いおつきあい              | 治部田 幸範 | 新潟大学名誉教授     |
| 講演4. 入れ歯を快適に使用するために            | 水橋 庸子  | 附属歯科診療所歯科衛生士 |
| 講演5. 入れ歯のための食事作りの<br>ポイントと献立紹介 | 松原 万里子 | 歯友会栄養士       |

## まとめ

公開シンポジウムは平成16年10月23日土曜日、13時30分から16時30分までの長時間の開催でしたが、本学学生や教職員も含む119名の参加者は大変熱心に聴いてくださいました。そして参加者からは、入れ歯の製作過程を理解した、手作りのおかずと米菓がおいしかったなど多くの感想をいただき、さらには参加者ご自身の入れ歯経験の紹介もありました。

講演会場の後かたづけを終えて一段落した17時56分に、学内で大きな数回の揺れがあり、これが新潟県中越地方に発生して多大の被害をもたらした新潟県中越大地震でした。公演終了後であったことに安堵しました。そして翌週からは、本学の歯科技工士と歯科衛生士が、県歯科医師会、新潟大学、日本歯科大学、県歯科技工士会、県歯科衛生士会による歯科医療救護チームに加わって活動を開始しました。被災された多くの方々には、医療スタッフによる口腔と義歯のケアが有効であることを実感していただき、たいへん喜んでもらいました。私たち歯科医療スタッフは、大学や診療所に留まることなく、医療を必要とする場に出向いて、患者さんの健康と食生活のサポートをこれからも続けたいと思っております。



講演風景



手作りの献立と米菓の試食



参加者の質問に答えるシンポジスト



会場からの質問